

令和6年度平岸中学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：35003

実 態	「学ぶ力」	
	これまでの 成果	課 題
	◇各種アンケートより、生徒・教職員ともに授業に対する評価が肯定的。特に生徒アンケートでは92%が肯定的回答で過去4年間の中で最も高い。 ◇話し合う場面への肯定的回答も9割を越えていることから、対話的で協働的な学びを大切にしたい成果とを感じる。 ◇「難しいことにも挑戦する意欲」の3項目すべてが、札幌市中2平均より5～8ポイント高く、失敗を恐れず主体的な活動へと繋がっている。 ◇「学習で困っている友達に声をかける」ことへの回答は札幌市中2平均より10ポイント以上高く、本校の生徒の大きな特徴と言える。	◇全国学力・学習状況調査の質問調査より「授業でのICT機器の使用頻度」「ICT機器が勉強に役立つ」という質問項目については否定的な回答の割合が高い。 ◇札幌市のICT活用についてのアンケートでは、学年の差が顕著に出ており、授業での効果的な活用方法について全職員で検討する必要がある。 ◇生徒自身が「何のために学ぶか」を意識し、より一層粘り強さやたくましさ身を付けていくことがのぞまれる。
	「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の態度〉の現状と課題	
	◇「自分にはよいところがある」において、本校の平均値は札幌市中2平均より10ポイント近く高く、過去3年間の中で最高となっている。「自分が必要とされていると感じる」は他の相互承認の項目より低い、これも札幌市平均より6ポイント高く、過去3年間で最高である。行事を大切に、感染症対策が必要となるときも様々な工夫をしながら行事や授業実践をしてきたことや「傾聴」に心がけていることから、自己肯定感の高まりに繋がっていると考えられる。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

学びの見通しをもち、自分ごととして学びへ向かう力

取 組	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
	◇イントロダクションの充実を図るために、ゴールを明確にし、生徒が見通しを持てるような授業づくりへ ◇他者の意見を求めたくなる仕掛け作り～効果的な協働的学びへ ◇手段としてのICT活用の充実～基本操作の力を十分に身につけて個別最適な学びへ ◇家庭学習調査を紙ものからChromebookでの実施と変更～自己調整能力の育成へ ◇総合的な学習の時間におけるキャリア教育の充実 ◇多様な表現活動～生徒自ら手法を選択 	◇学校祭、合唱コンクールを中心とした生徒会行事における生徒の「やりたい」を支える活動 ◇生徒会ボランティア活動の充実 ◇全校道徳の実施～学級での話し合いを全校で交流し、いじめ防止へ向け、生徒自らの言葉による宣言へ ◇生徒会と児童会の会議（WEB・対面）の充実～小学生に憧れられる中学生へ ◇新任生徒会役員応援メッセージ 部活動生徒応援メッセージ 

〈本プログラムの実行に向けて〉

